

託
麻
の
年
表

縄文時代	旧石器時代				区分
	草創期	後期	前期	後期	
前七千	一万	二万	三万	前一〇万	前五〇万
					西暦年号
					託麻関係のできごと
					(○) 日本国 (・) 熊本県関係のできごと
					○日本列島の原形ができる。 金峰山火山群が活動を始める(松尾山・石神山・荒尾山などがつぎつぎに形成される)
					○日本列島に人類(原人)が住み始める。 ・阿蘇大噴火(阿蘇一一・二六万年前) ・金峰山の火口岳(一の岳)ができる。
					○(一五万年前) ・阿蘇大噴火(阿蘇一二・三・一四万年前) ・荒尾市平山宿遺蹟から片刃礫器・尖頭器が、球磨郡深田村下里遺蹟から剥片が採集されている。 ・阿蘇大噴火(阿蘇一四)
					○細石刃核が出土している。 〔新南部遺蹟群〕 石器を作った細石核が出土している。葉山遺蹟群)
					○細石器が日本列島に普及 ・松橋町田野遺蹟でナイフ型石器・台形石器が発掘されている。 ・熊本市谷隱軒(谷尾町)遺蹟で細石器が出土している。
					○世界的に新石器時代となる。 ○日本列島に土器(豆粒文土器・隆起線文土器)作りが始まる。引き続き細石器を用いたが、しだいに石鏃・磨製石斧などに変わる。 ○撚糸文土器や押型文土器が全国的に拡がる。

縄文時代				
後期	中期	前期	前期	早期
前二千	前三千			前四千
北久根山式土器が使用される。 辛川式が出士。 太郎迫式が出士。 御領式が出士。 鳥井原式が出土。 出水式・福田式が出土。 中津式が出士。	北久根山・上南部・長嶺・ 弓削宮原・弓削上古閑 〔弓削上古閑〕 〔弓削上古閑・弓削宮原・中江・ 吉原・上南部・新南部・葉山・長嶺〕 〔弓削宮原・上南部・葉山・乾原〕 〔中江・吉原〕	阿高式土器が使用される。〔中江・上南部・葉山・中山・乾原〕	曾畠式土器が使用される。〔弓削上古閑・弓削宮原遺蹟〕	轟式土器が使用される。 轟A式・轟B式が出土。〔上南部・下南部・弓削宮原・北久根山遺跡〕
・熊本地方ではおもに押型文土器が作られる。 ・全縄文式が出土。〔中江・葉山遺蹟〕 ・撚糸文が出土。〔葉山遺蹟〕 ・塞の神式が出土。〔中山遺蹟〕	・有明海や八代海沿岸では貝塚が作られるようになる。 ・宇土市轟貝塚・松橋町宮島貝塚が営まれる。 ・九州西海岸を中心に幾何学文様の曾畠式土器が分布する(宇土市曾畠貝塚が標識遺蹟) ・宇土市曾畠貝塚でドングリの貯蔵やヒョウタンが発掘されている。	・熊本地方にも南九州系の塞ノ神式土器がみられる。(熊本市健軍上ノ原遺蹟)	・西九州に貝殻条痕文や隆起線文を持つ轟A・B式土器が作られる。	・熊本地方ではおもに押型文土器が作られる。 ・熊本市カブト山遺蹟・庵の前遺蹟などが営まれる。 ・熊本地方にも南九州系の塞ノ神式土器がみられる。(熊本市健軍上ノ原遺蹟)
・阿高系と磨消縄文とが融合した熊本地方独特の北久根山式土器がつくられる (熊本市北久根山遺蹟)	・この頃、エジプトではピラミッドが作られる。 ・熊本市沼山津貝塚・川戸貝塚・城南町阿高貝塚が形成される。	・南福寺式・出水式・鐘崎式・辛川式・西平式 ・三万田式・御領式土器が使用される。	・西九州に貝殻条痕文や隆起線文を持つ轟A・B式土器が作られる。	・熊本地方ではおもに押型文土器が作られる。 ・熊本市カブト山遺蹟・庵の前遺蹟などが営まれる。 ・熊本地方にも南九州系の塞ノ神式土器がみられる。(熊本市健軍上ノ原遺蹟)

弥生時代			縄文時代	
後期	中期	前期	晩期	後期
— ○○	○	前一〇〇 前二〇〇	前一〇〇 前二〇〇	前一千年
台地上に大溝をもつ大規模遺蹟が出現する。〔石原龜甲遺蹟・弓削中原長嶺・戸島葉山遺蹟〕	○	○	○	○
・九州でも土偶がつくられ、熊本地方を中心多く出土する。	○	○	○	○
・土偶がつくられ、上南部遺蹟で特に多く出土している。 〔上南部・新南部・弓削宮原・迎八反田乾原・長嶺殿の山遺蹟〕	○	○	○	○
・竪穴住居が造られる。この期以降土器表面の文様がなくなっていく。	○	○	○	○
・熊本市周辺の台地で大規模な遺蹟が宮まれる	○	○	○	○
・熊本地方でも石包丁などの新しい磨製石器が作られるようになる。	○	○	○	○
・九州北西部を中心に大型の甕棺墓が盛行する	○	○	○	○
・熊本地方に黒髮式甕棺が盛行する (熊本市黒髮式遺蹟)	○	○	○	○
・熊本地方で中広銅矛が出土している。	○	○	○	○
・西日本で祭器化した銅矛・銅劍・銅戈などが作られる。	○	○	○	○
・熊本地方で中広銅矛が出土している。 (熊本市鶴羽田遺蹟)	○	○	○	○

古墳時代		弥生時代
中期	前期	後期
	四〇〇	三〇〇
		<p>長嶺遺蹟からは堅穴住居址が発掘され、土の鈴が発見されている。</p> <p>下南部遺蹟からは堅穴住居址が発掘され、稻の穂摘み具の石包丁をはじめ磨製の石鋤なども出土する。</p> <p>小型の紡製鏡が出土する。</p> <p>鉄製農具や木工具が出土する。</p> <p>〔石原龜甲遺蹟 〔石原龜甲遺蹟〕〕</p>
		<ul style="list-style-type: none"> ○この頃、日本列島に古墳が作られる。 ○邪馬台国女王卑弥呼、魏の明帝に使節を送る ・熊本地方で重弧紋長頸壺（免田式）が盛んに作られる（免田町下乙本日遺蹟） ・この頃、熊本でも宇土半島基部に前方後円墳の築造が始まる <ul style="list-style-type: none"> （宇土市迫の上古墳・弁天山古墳） ・方形周溝墓も作られる。 <ul style="list-style-type: none"> （熊本市水源池遺蹟・城南町塚原古墳群） ・菊池川・氷川流域を中心として船形石棺が作られる。 ・熊本県下の各地で前方後円墳が築かれるようになる。 ・この頃から、熊本県南部に装飾古墳が作られ始める。 ・この頃、熊本市上の門や上高橋高田の集落が営まれる。 ・横穴式石室が作られ始める <ul style="list-style-type: none"> （熊本市高城山古墳・宇土市城二号古墳 ○須恵式が作られ始める。 ・初期の横穴墓が作られる <ul style="list-style-type: none"> （山鹿市付城横穴群・阿蘇町御塚横穴） ・地域の中核となる前方後円墳群が作られる。 <ul style="list-style-type: none"> （鹿央町岩原古墳群・菊水町江田船山古墳
竜北町古墳群（		

飛 鳥 時 代	古 墳		時 期	代 中 期
	後	古		
			五〇〇 (繼体二二)	五〇〇
(天智二)	(大化二) (舒明二)	(推古元)	(安閑二)	
(六六三)	上南部村に玉依姫命を祭神とする「奈我神社」が創建されたと伝える (六六三)	白川の河岸段丘面の下南部等に集落遺蹟が営まれる。 〔下南部遺蹟・熊本市陣内上ノ園遺蹟群〕 下南部遺蹟では、住居跡から土製の鈴や鐵鍬が出土。	○百濟から仏經が伝わる。 ・熊本市釜尾古墳が築造される。 ・巨大石屋形をもつ横穴式石室が作られる。 （熊本市二軒小屋古墳・山鹿市 弁慶ケ穴古墳・竜北町大野窟古墳） ・宇土半島を中心に抜玄門をもつ横穴式石室が 作られる（熊本市天福寺裏山古墳） ・熊本市内にも多くの横穴墓が作られる。 （千葉城横・古城横穴群・つつじヶ丘等	○筑紫國造磐井が反乱を起こす （五一七） ・この頃、宇土半島や天草で土器を用いた製塩 が行われる。 （五和町沖ノ原遺蹟・三角大田尾製塩跡） ・熊本平野に春日部屯倉が設置される（五三五） ・この頃から熊本県下でも須恵器生産が行われ る。（松橋町当尾窯跡）
(六六三)	○聖徳太子摄政となる （五九三） ・巨石墳が作られる（熊本市万日山古墳） ○火葬などの普及により、古墳・横穴がしだい に作られなくなる ○聖徳太子が遣唐使を派遣 （六三〇） ○大化の改新 （六四五） ○日本軍、百濟の白村江の戦いで唐・新羅連合 軍に敗退 （六六三）			・熊本平野の北西部に有力な古墳群が作られる （熊本市千金甲古墳・小松山古墳群） ・熊本県北部にも装飾古墳が作られるよう になる。

平安時代	奈良時代	飛鳥時代
		七〇〇 （大宝一）
		（和銅三）
		この頃、託麻郡家（熊本市渡鹿A遺蹟＝渡鹿一丁目）が造られる。 この頃、託麻原台地の古代集落（大江遺蹟）が始まる。
八〇〇 （延暦一三）	七一八（養老三） （養老二） （天平一三）	○大宝律令完成 ○平城京に都を移す。 ・萩尾大池で生産した須恵器が熊本県域に普及する。
	七四四（天平一六）	・肥後国司道君首名が味生池を池上町に築く。 ・熊本に火葬が普及する。（熊本の藏骨器はこれ以降九世紀後半まで続く）
	六月、白川大洪水、人畜多数死ぬ。	○國分寺・國分尼寺の詔がだされる（七四一） ・託麻国府が熊本県府本町に造られる。
	この頃、九世紀前半にかけて新南部・下南部遺蹟などの大規模な集落が出現する 〔新南部遺蹟群・神水遺蹟・二本木遺蹟〕	・この頃、肥後國分僧寺・國分尼寺が建立される。 （七四二）
		○平安京に都を移す。 ・この頃から十世紀にかけて肥後国内各地で須恵器が生産される。 ・この頃、熊本県池上町の池辺寺が創建される ・池辺寺内の堂床地点で巨石に対する祭祀が行われている
託麻台地の集落で鍛冶を行つた跡が発掘されている。 〔乾原・迎八反田遺蹟〕	（七九四）	（七九四） ・熊本県健軍神社周辺遺蹟・南平上遺蹟で鉄板墓誌が出土している。
・水前寺廃寺が建立される。 ・託麻国府が洪水によつて飽田国府（熊本二本木）へ移る。		

・朝鮮半島情勢の緊張に対応し、鞠智城が築城

代	時	安	平
九〇〇 （寛平六）	一〇〇〇 （長保二）	一〇八六 （天暦五）	一一〇九二 （承平五）
託麻台地の集落周辺で水田が営まれる。 〔大江遺蹟〕	中山瓦窯で製作された瓦が渡鹿廃寺で使われたと考えられている。 〔中山瓦窯址遺蹟〕	平将門・藤原純友追討のため小山諏訪神社が創建されたと伝えられている 〔神園山瓦窯址遺蹟〕	中山瓦窯で製作された瓦が肥後国分寺に供給されている。（十世紀）
○遺唐使の廢止 （八九四）	○延喜式完成 （九一七）	・この頃、平将門誅伐のため藤崎八幡宮が創建される。 （九三五）	・この頃、平将門誅伐のため藤崎八幡宮が創建される。 （九三五）
○後撰和歌集に、檜垣の歌が選ばれる。 （九五一）	・清原元輔 肥後守となる。任中檜垣と交流があつたと云う。 （九八六）	・後撰和歌集に、檜垣の歌が選ばれる。 （九五一）	・後撰和歌集に、檜垣の歌が選ばれる。 （九五一）
○白河院領山鹿荘成立 ○保元の乱。 ○平治の乱。	○阿蘇社焼亡 ○前九年の役始まる。 ○白河上皇が院政を開始。	○白河院領山鹿荘成立 ○保元の乱。 ○平治の乱。 ○平清盛が太政大臣になる。	○白河院領山鹿荘成立 ○保元の乱。 ○平治の乱。 ○平清盛が太政大臣になる。

鎌倉時代										平安時代	
										一七八〇	一七八九
一一三一	一一三四	一一三六	一一三四	一一二九〇	一一二八八	一一二八一	一一二七四	一一二六二	一一二五	一一二三九	一一二三八
元弘	正中	正和	正応	弘安	文永	弘長	建長	延応	貞安	貞応	承久
三元	元元	元五	元三	元三	一	四	一二	三	二	三	三元
元徳	正慶	二									二三四
上南部、乙姫神社が代官肥後貞能により再興される。 託麻六個荘の名前が記録にはじめて見える。										治承	
大友能秀が能直の遺領神藏荘などを相続する。 龜若殿母御前が小山地頭代となる。 早岐盛実が小山地頭職を譲られる。 小山の地頭職早岐清基に譲られる。 託麻別当時秀を神藏荘地頭下司職とする。 託麻頼秀が神藏荘地頭下司職となる。										壽永治承	
大友能直が託麻郡神藏荘の地頭下司職となる。 源業政が託麻郡六個荘内小山地頭職に補任される。(小山地頭職初代)										源頼朝	
○源頼朝が兵を上げる。 ○菊池隆直(六代)が反平家として立ち上る。 ○菊池隆直が平家に降伏する。 ○平家滅亡、源頼朝が諸国に守護地頭職を置く。										源頼朝	
○源頼朝が暗殺される。 ○承久の変がおこる。										源頼朝	
○源頼朝が征夷大将軍となる。										源頼朝	
○正中の変がおこる。 ○元弘の変がおこる。 ○鎌倉幕府滅ぶ。建武の新政。 ○菊池武時(十二代)鎮西探題館を襲撃し討死。										源頼朝	

室		町		時		代	
戦国時代		南北朝		時		代	
一四七七	一四六七	一四四五	一四三八	一三九二	一三八八	一三七八	一三四七
文明九	応仁元	文安元	嘉吉元	永亨十	応永元	弘和元	正平二
						天授二	正平年間
						一二〇四	五
						八三	四元二
						貞和三	建武二
						文和三	建武二
						延文四	三
						大智禪師が長崎水月庵でなくなる。	菊池隆信の養子武宗が六個荘内小山村の地頭職を託麻能勝（武宗の養子）に譲る。
						菊池武光（十六代）が先靈菩提のために創立したと言う	菊池武宗が早岐秀政に小山村地頭職の三分の一を譲る。
						菊池武光（十六代）、筑後大久保で少式頼尚を破る（筑後川合戦）	戸島の吉祥寺・中山の西福寺が大智禪師によって開かれたと伝える。
						・征西將軍宮懐良親王、宇土津に来着。	
						・南北朝が合一する。	
						○南北朝が合一する。	
						○足利義満、金閣寺創建。	
						○永亨の乱（足利持氏反乱）がおこる。	○菊池武重（十三代）、箱根竹下で戦う
						○将軍足利義教が殺される（嘉吉の乱）	○南北朝の分立。
						○応仁の乱がおこる。	
						早岐和政が藤崎宮に神領を寄進する。	
						託麻満親が六個荘内小山村地頭職を安堵される。	
						小山の中に中江・鹿帰瀬・平山・中山・戸島・今村などの地名が入っている。	
						託麻能勝が小山村地頭職ほかを託麻武者一丸に譲る。	
						託麻武者一丸が早岐氏政小山村三分の一の地頭職を横領する。	
						・菊池本城陥落。	
						・菊池武光（十六代）、筑後大久保で少式頼尚を破る（筑後川合戦）	
						・南北朝が合一する。	
						○足利義満、金閣寺創建。	
						○永亨の乱（足利持氏反乱）がおこる。	
						○将軍足利義教が殺される（嘉吉の乱）	
						○応仁の乱がおこる。	
						早岐和政が藤崎宮に神領を寄進する。	
						託麻満親が六個荘内小山村地頭職を安堵される。	
						小山の中に中江・鹿帰瀬・平山・中山・戸島・今村などの地名が入っている。	
						託麻能勝が小山村地頭職ほかを託麻武者一丸に譲る。	
						託麻武者一丸が早岐氏政小山村三分の一の地頭職を横領する。	
						・菊池本城陥落。	
						・菊池武光（十六代）、筑後大久保で少式頼尚を破る（筑後川合戦）	
						・南北朝が合一する。	
						○足利義満、金閣寺創建。	
						○永亨の乱（足利持氏反乱）がおこる。	
						○将軍足利義教が殺される（嘉吉の乱）	
						○応仁の乱がおこる。	

代時町室							
戦国時代				代時町室			
一四五	一五五〇	一五四九	一五四八	一五六六	一五四三	一五三二	一五〇六
一一〇	一九	一八	一七	一五	一二	三	六
小山梅谷寺（棟谷寺）の方公記室の逆修塔ができる。	石坂岩見守が乙姫大明神を造立し、神領を寄進すると伝える。 弓削薬師堂の板碑が作られる。 上南部村・乙姫大明神の諸殿が火災に消失。石坂岩見守が諸殿を造営。	石坂岩見守の供養塔（五輪塔）ができる。（上南部の共同墓地にある） 八反田の阿弥陀板碑がつくられる。 弓削山伏塚の大乘妙典書写の碑がたつ。 長嶺（馬場）の石神さん板碑ができる。	弓削薬師堂の板碑が作られる。 上南部村・乙姫大明神の諸殿が火災に消失。石坂岩見守が諸殿を造営。	石坂岩見守の供養塔（五輪塔）ができる。（上南部の共同墓地にある） 八反田の阿弥陀板碑がつくられる。 弓削山伏塚の大乘妙典書写の碑がたつ。 長嶺（馬場）の石神さん板碑ができる。	石坂岩見守が乙姫大明神を造立し、神領を寄進すると伝える。 弓削薬師堂の板碑が作られる。 上南部村・乙姫大明神の諸殿が火災に消失。石坂岩見守が諸殿を造営。	石坂岩見守が乙姫大明神を造立し、神領を寄進すると伝える。 弓削薬師堂の板碑が作られる。 上南部村・乙姫大明神の諸殿が火災に消失。石坂岩見守が諸殿を造営。	石坂岩見守が乙姫大明神を造立し、神領を寄進すると伝える。 弓削薬師堂の板碑が作られる。 上南部村・乙姫大明神の諸殿が火災に消失。石坂岩見守が諸殿を造営。

早岐邦政・同英冬の名が見える。
(菊池重朝開催の一 日万句連歌興行に参加)

戸島口向の六地蔵ができる。

○足利義政が銀閣寺を建てる。

・隈本の千葉城主出田秀信が御船陣原の戦いで

戦死する。

・鹿子木寂心が隈本城に在城するという。

・菊池能運（二十二代）、肥後守護職を
宇土為光に奪われ島原に逃走。

・菊池能運がなくなり、双従弟の政隆が

菊池本家を継ぐ（二十三代）。

・菊池能運がなくなり、双従弟の政隆が

菊池本家を継ぐ（二十三代）。

・菊池の老臣達は、政隆を廢して阿蘇惟長を

菊池氏の後継者にする（菊池武経）

・菊池家を継いだ阿蘇惟長（菊池武経）は阿蘇

に帰り、託麻武包が菊池家の当主となる。

・菊池武包が追われ、大友重治が菊池家の当主

となる（菊池義武）

・菊池義武、隈本城を大友勢に攻められ肥前に敗走。

・ボルトガル人が種子島に来て鉄砲を伝える。

・大友義鑑が肥後守護となる。

・フランシスコザビエルが鹿児島に来てキリスト教を伝える。

・菊池義武が隈本城に入り、大友義鎮に叛く

・肥前に逃れ菊池家は名実ともに亡びる。

・城親冬が隈本城に入る。

・大友義鎮が肥後を平定する。

安	土	桃	山	時	代	室	町	時	代
						戦	國	時	代
一五九五	一五九四	一五八九	一五八八	一五八七	一五八六	一五八五	一五八四	一五八二	一五七八〇
一元三	一七	一六	一五	一四	一三	一〇	九八六	五四五	天正元
文禄									天正一二
四									弘治二
三									永禄三
二									元龜二
一									弘治二
									戸島凹通山板碑ができる。
									小山梅谷寺（梅谷寺）の心月怡玄公の墓がつくられる。
									平山の常清圓心（石坂五郎右衛門武治）の宝印塔ができる。
									上南部の石ぼとけさんが出来る。
									○足利幕府が滅びる。
									○織田信長が安土城をつくる。
									○肥前の龍造寺隆信が肥後に侵入する。
									○薩摩の島津義久が肥後に侵入する。
									○本能寺の変で信長が死ぬ。山崎の戦いで羽柴秀吉が明智光秀を滅ぼす。
									○隈本城主城親賢がなくなり子久基が跡を継ぐ。
									○白川且過瀬の合戦（甲悲宗運と城親賢の戦い）
									○島原で島津・有馬の連合軍と龍造寺軍が戦い
									○龍造寺隆信は戦死する。
									○甲悲宗運死去。
									○羽柴秀吉が関白になる。
									○島津軍阿蘇領攻撃。隈庄・御船・木山・津森合志城落城。
									・肥後は島津勢に攻略されつくす。
									○豊臣秀吉の九州征伐。
									・国衆一揆がおこる。
									・豊臣秀吉・佐々成政を肥後の領主とする。
									・加藤清正・小西行長が肥後半国ずつの領主となる。
									・梅北国兼、佐敷城を襲うが失敗（梅北の乱）
									・岡本四郎兵衛尉が御船塚（小山）に祖父善慶禪定門の墓をたてる。
									・上南部村乙姫神社が馬場楠井手掘削のため、移される。

江	戸	時	代	
一六九三	一六九〇	一六八五	一六八三	一五九九
元禄	貞亨	天和	延宝	慶長
六	三	二	三	五四
寛文	一一	一六七一	一六七	一九一
明暦	慶安	正保	一三	九二
六三九	六四五	六四六	六五一	六三六
六三七	六五五	六五五	一六五	六三七
六七三	一六七	一六七	一六七	六〇三
六八〇	一六八	一六八	一六八	六〇四
六八三	一六九	一六九	一六九	六〇七
一六九	一六九	一六九	一六九	六〇八
				六〇〇
				六〇〇

廣福寺の十一面觀音像ができる。

○関が原の戦い。

○徳川家康が征夷大將軍となり徳川幕府を開く。

・肥後国検地帳・郡高帳・郡村帳作成

・熊本城が完成する。隈本を熊本と改める。

・加藤清正がなくなり、忠広が跡をつぐ。

○大阪冬の陣。

○大阪夏の陣、豊臣氏滅亡。

・中尾山に建築中の本妙寺完成。

・加藤忠弘が領地を没収され出羽国に流される

・細川忠利が肥後を与えられて入国。

○関が原の戦い。

○徳川家康が征夷大將軍となり徳川幕府を開く。

・肥後国検地帳・郡高帳・郡村帳作成

・熊本城が完成する。隈本を熊本と改める。

弓削村・石原村・吉原村の検地帳ができる。馬場楠井手が掘削される

南部村・長嶺村の検地帳ができる。

長嶺阿蘇神社が創建される。

僧了心(了信)が廣福寺開山。

保田窪の地筒が設置され、保田窪村(四十五戸)ができる。

新南部が開拓され、新しく新南部村ができる。

保田窪の地筒、島原の乱に出兵。千田四郎右衛門ら戦死。

宗門改めのため、各寺院に檀家名簿を作り、誓詞を出させる。

模谷寺が明室察和尚によって再興される。

模谷寺薬師堂の日光・月光菩薩ができる。

模谷寺中興梅庵宗養が死ぬ

御領・中山の古墓ができる。

長嶺坂田長者の墓ができる。

長嶺廣福寺琳哲(二代目住職)の墓ができる。

長嶺・南居屋敷共有墓地の古墓ができる。

模谷寺明室察和尚死し、西福寺に葬られる。

平山の石坂武吉(平山の菊池家六代といわれる)の墓ができる。

弓削神社の石灯籠ができる。

小山諫訪神社に石原忽大夫が石灯籠を奉納する。

乙姫神社の隣神像ができる。

・大飢饉。餓死者多く、城下各所で粥を施す。

○生類憐みの令ができる。

江	戸	時	代
一七七二	一七六八	一七五六	一七〇四
九八五	二八八	一七八五	一七〇一
一七七一	一七六八	一七五八	元禄
九八五	二八六	一七五六	一三九七
長嶺 馬場観音堂本尊が彩色される。 中山西福寺跡に野翁塚がつくられる。 御領年弥社鰐口がつくられる。	明和 宝暦 寛延 延亨	一七四八	一七〇〇
下南部七森神社の石灯籠ができる。 長嶺阿蘇神社に手水鉢が奉納される。	一七三三	一七三一	一七〇九
長嶺 馬場観音堂本尊が彩色される。 中山西福寺跡に野翁塚がつくられる。 御領年弥社鰐口がつくられる。	一七三〇	一七二四	一七〇八
下南部七森神社の石灯籠ができる。 長嶺阿蘇神社に手水鉢が奉納される。	一七二〇	一七二〇	一七〇七
長嶺 馬場観音堂本尊が彩色される。 中山西福寺跡に野翁塚がつくられる。 御領年弥社鰐口がつくられる。	一七一五	一七一五	一七〇六
小山観音堂の本尊ができる。 長嶺阿蘇神社に坂田家から石灯籠一対が奉納される。 御領年弥社の石鳥居ができる。 長嶺・南居屋敷の石地蔵ができる。 新南部天満宮手水鉢ができる。 八反田地蔵堂ができる。	一七一六	一七一六	一七〇五
戸島 北向の放牛石仏九十五体ができる。 御領の観音勢至像ができる。 保田窪天満宮に灯籠が奉納される。 上小山天満宮の神像がつくられる	一八	一八	一七〇四
・阿蘇山噴火。 砂が筑後・豊前・肥前・薩摩にもおよび 阿蘇谷難波する。	重賢就封	細川重賢が宝暦の改革をはじめる	・肥後藩主細川宗孝が江戸城で切られ死去

江	戸	時	代
一一一八一一一八〇九	一一一八〇六一一八〇八	一七九一 一七九二 一七九三 一七九四 一七九五 一七九六 一七九七 一七九九	一七七四 一七七五 一七七六 一七八四 一七八五 一七八六 一七八七 一七八八
一一一八一一一八〇九	一一一八〇二一一八〇五	寛政 文化 亨和 一 一 一 一 一 一 一 一	安永 天明 一〇 二 三 四 五 六 七 八
一三九八七六	五三二二	西福寺の喚鐘がつくられる。 御領年弥社の石灯籠がつくられる。 迎八反田の石地蔵がつくられる。 中山西福寺跡の芭蕉塚が建つ。 八反田の青面金剛が祀られる。 長嶺妙見社に妙見大菩薩の石碑がつくられる。 長嶺阿蘇神社に坂田家から石灯籠一対が奉納される。 新南部下・石地蔵ができる。 弓削毘沙門堂境内に大津手永惣屋芥川守寿が水神碑を建てる。 長嶺阿蘇神社に坂田家から石灯籠一対が奉納される。 神園山麓に大神宮参拝碑が建つ。 御領年弥社の手水鉢ができる。 平山天満宮の石灯籠ができる。 長嶺南居屋敷の地蔵ができる。 下南部梨木坂の石地蔵ができる。 長嶺妙見社の石地蔵（円信の五十体の内の一體目）が出来る。	長嶺（馬場）天神石灯籠ができる。 平山の地蔵・迎八反田の地蔵ができる。 保田窪天満宮の鳥居ができる。 北向下の地蔵、北向上小嶺の地蔵ができる。 長嶺南出小屋の地蔵ができる。 長嶺廣福寺の喚鐘が再鑄される。 吉原地蔵がつくられる。 戸島柿の木の地蔵ができる。 中山の青面金剛がつくられる。 ○ロシア船が北海道に来る。 ○天明の大飢饉。 ○全国に疫病流行。 ○松平定信が寛政の改革をはじめる。 ・凶作のため熊本・川尻に打ち壊しがはじまる ・雲仙岳の大爆発で肥後に津波が寄せ大被害 ができる（島原大変・肥後迷惑）。 ・大雨で熊本城下大洪水（辰の年洪水）。
一一一八一一一八〇九	一一一八〇二一一八〇五	伊能忠敬が測量のため天草から肥後をめぐる	

江	戸	時	代
一一一 一一八 一一六 一一八 一一六 一一七	一一八 一一五 一一六 一一八 一一五 一一八	一一八 一一四 一一八 一一八 一一五 一一八	一一八 一一二 一一八 一一八 一一八 一一八
慶元 文久	安政	嘉永 弘化	天保
三元 元七 六	五 元六	三 元二	一 六 四 五 三 四
一一八 一一六 一一四 一一八 一一六 一一七	一一八 一一五 一一八 一一五 一一八 一一九	一一八 一一四 一一八 一一五 一一四 一一八	一一八 一一三 一一八 一一八 一一八 一一八
長嶺（馬場）迫の石地蔵が祀られる。 八反田の観音が祀られる。	鹿帰瀬の観音堂ができる。 楢谷寺の鉄牛が大智の一宇一石塔を修理再建する。	吉原地ノ神の碑が建つ。 平山天満宮の石灯籠ができる。 鹿帰瀬地蔵堂の本尊ができる。 石原地ノ神の碑が建つ。 戸島村 岡田喜久藏が寺小屋塾を開く。（明治八年まで四十年間）	○外国船打払令ができる。
吉祥寺跡の地蔵堂が造立される。 長嶺馬場地蔵がつくられる。 長嶺村 宇治円悟が寺小屋塾を開く。（明治六年まで二十四年間） 竹藪の笹に実が成り、収穫に大童になる。 新南部（中）石地蔵ができる。 馬場楠井手浚えがおこなわれる。	平山天神社（天満宮）の手水鉢が作られる。 上南部乙姫神社の隋神と狗犬の彩色が行われる。 迎八反田の猿田彦碑が建つ。	戸島村 岡田喜久藏が寺小屋塾を開く。（明治八年まで四十年間）	○永野忠邦の天保の改革が始まる。 ・相良藩で草山騒動（百姓一揆）が起ころる。
長嶺村 坂田亀彦が寺小屋塾を開く。（明治八年まで十七年間） 郡代上妻半右衛門（半雪）が白川聲取坂新橋の掛替用のために 平山・神園に杉・檜一七〇〇本を植樹させる（現在の安巳橋又は安政橋） 白川聲取坂新橋掛継御用材植林の神園山南麓石碑が立てられる 御領の七畝金神の手水鉢ができる。 弓削鬼洲門堂本尊再興。 迎八反田天神社の社殿が再建されている。	○ペリーが浦賀に来る。 ○日米和親条約が結ばれる。 ・布田保之助が矢部の通潤橋をつくる。		○桜田門外の変で大老井伊直弼が殺される。 ○蛤御門の変 ○大政奉還・王政復古の大号令ができる。

○桜田門外の変で大老井伊直弼が殺される。
○蛤御門の変
○大政奉還・王政復古の大号令ができる。

現		代	
明	治	時	代
一八七一	一八七〇	一八七三	一八六九
一八七二	一八七四	一八七五	一八七六
一一一 四三二一	一〇	九八	三四二 明治
保田窪 弓削・石原・吉原・小山御領 飽託・託麻一帯大旱魃。	保田窪 戸島・上小山・下小山・長嶺 戸島・上小山・下小山・長嶺 弓削・石原・吉原・小山御領 は第一八大区五小区	戸島村だけが第四大区六小区に入り、他村は第四大区七小区となる。 保田校（保田窪村 二年で閉校）・長嶺校（長嶺村）・南部校（新南部村） 原上校（吉原村）・山園校（小山村）などの学校ができる。 新南部三石地蔵堂が再建される。 戸島校（戸島村）・弓瀬校（鹿帰瀬村）が出来る。 神風連の変 保田窪の郷士十二名が神風連に参加する（二名戦死・十名自害）	第二次大小区制実施。 戸島村だけが第四大区六小区に入り、他村は第四大区七小区となる。 保田校（保田窪村 二年で閉校）・長嶺校（長嶺村）・南部校（新南部村） 原上校（吉原村）・山園校（小山村）などの学校ができる。 新南部三石地蔵堂が再建される。 戸島校（戸島村）・弓瀬校（鹿帰瀬村）が出来る。 神風連の変 保田窪の郷士十二名が神風連に参加する（二名戦死・十名自害）
西南の役 保田窪天満宮で民権党の有志が熊本協同隊を結成・出陣。 熊本城攻防の後、神園から保田窪・健軍・砂取にかけて薩軍が陣地構築 経（京）塹・保田窪の激戦 新南部・三つ石部落（六戸）兵火により全焼 下南部全戸焼失・王田一部焼失 薩軍後退後、平山・御領・長嶺に政府軍進出 五月七日平穏な村々に復帰 長嶺馬場居屋敷の猿田彦大神が祀られる。	県庁が二本木から古城に移り、白川県を 熊本県と改称。 ○秋月の乱（福岡）・萩の乱（山口） ・熊本城の包囲戦。	・郡区町村編成法実施・大小区制廃止。	○版籍奉還 ・横井小楠が京都で暗殺される。 ・手永の称を郷と改め、庄屋も里正と改称。 ○廃藩置県 ○戸籍調査開始・租税は金納になる。 ○学制発布 ・県庁が二本木に移り、熊本県を白川県と改称
旧合志郡に属していた弓削・石原・吉原・小山御領の四村が託麻郡に入る 保田校が再開される。 一本松に保田窪より三名が入植、三郎村が創立。			

現						代	
明			治		時		代
一九〇五	一九〇四	一九〇三	一九〇二	一九〇一	一八九九	一八九〇	一八八三
三八	三七	三六	三五	三四	三三	三二	一八八四
戸島深迫に甲佐から二名入植。 供合小が高等科三年を認められる。 廣畑小が高等科三年を認められる。 小山戸島小が高等科四年を認められる。 供合小が高等科四年を認められる。	新校舎落成	廣畑尋常小が高等科二年課程を併置。廣畑尋常高等学校となる。	保田窪・長嶺両校が合併して廣畑尋常小学校となる。	供合東部・供合西部両校が合併して供合尋常小学校となる。	小山戸島尋常小学校が高等科を設置。尋常高等小学校と改称する。	供合往還改修記念碑が建てられる。	長嶺・小山御領・保田窪三村が合併して廣畑村となる。
○日露戦争はじまる（翌三八年まで）	○日英同盟が結ばれる。 明治天皇の熊本行幸（行幸橋・行幸村）	白川の大水害。明午・安巳・長六橋流失し、子飼橋付近が特にひどい。	鹿帰瀬・弓削・石原・中江・吉原・上南部・下南部・新南部の八村と小山村の平山が合併して供合村となる。	廣畑村の小学校は、保田窪尋常小学校・長嶺尋常小学校と改称する。	平山を除く小山村と戸島村が合併して小山戸島村となる。	上南部に分校をおく以文校が再び保田校・南部校に分離・保田校新築	長嶺校が再開される（長嶺字山尻一九九八番） 下南部校と新南部校が合併して南部校となる。
一九	二〇	二一	二二	二三	二四	二五	明治一六
一七	一八八九	一八九一	一八九三	一八九四	一八九六	一八九八	一八八六
上南部に分校をおく以文校が再び保田校・南部校に分離・保田校新築	長嶺・小山御領・保田窪三村が合併して廣畑村となる。	鹿帰瀬・弓削・石原・中江・吉原・上南部・下南部・新南部の八村と小山村の平山が合併して供合村となる。	平山を除く小山村と戸島村が合併して小山戸島村となる。	長嶺・小山御領・保田窪三村が合併して廣畑村となる。	鹿帰瀬・弓削・石原・中江・吉原・上南部・下南部・新南部の八村と小山村の平山が合併して供合村となる。	長嶺・小山御領・保田窪三村が合併して廣畑村となる。	長嶺校が再開される（長嶺字山尻一九九八番） 下南部校と新南部校が合併して南部校となる。
・県庁が古城から千反畠に移る。 ・大日本帝国憲法の発布・市制町村制実施。 ・熊本区が熊本市となる。	・九州鉄道が熊本まで開通・熊本に電気がつく ・日清戦争はじまる（一 翌年まで）	・市中央の山崎練兵場が鹿渡に移り跡地の区画整理開始。	・白川の大水害。明午・安巳・長六橋流失し、子飼橋付近が特にひどい。	・日英同盟が結ばれる。 ・明治天皇の熊本行幸（行幸橋・行幸村）	・日露戦争はじまる（翌三八年まで）	・日英同盟が結ばれる。 ・明治天皇の熊本行幸（行幸橋・行幸村）	・県庁が古城から千反畠に移る。 ・大日本帝国憲法の発布・市制町村制実施。 ・熊本区が熊本市となる。

代				明治時代			
和 時 代		大 正 时 代		一九一四年		一九〇八年	
一九四二	一九三七	一九三六	一九三五	一九三一	一九二九	一九二八	一九二六
一七	一一	一〇	九	六	四	昭和二年	一五
一六	一一	九	八	六	四	三	一四
学令改正により各小学校が国民学校と改称される。	小山諏訪神社創建壱千年記念碑が建てられる。	中山の三ヶ所の溜池（西福寺・鳥越・山の口）を改修。	中山溜池改修記念碑が建てられる。	託麻新四国八十八ヶ所設立十周年記念修業大師像が建設される。	長嶺馬場居屋敷に馬場道路改修記念碑が建てられる。	豊肥線熊本一大津間開通。	廣畑小校舎増築落成。
○日中事変おこる。	○太平洋戦争はじまる。	○三菱重工業株式会社熊本航空機製作所設立	○第一次世界大戦がおこる。	○普通選挙法公布。	・熊本市が隣接十一町村を合併する。	・関東大震災おこる。郡制廃止。	・市電・上水道が完成し、山崎町の兵営も郊外に移転（熊本市の三大事業）
○中華人民共和国成立。	○支那事變（第二次世界大戦）勃発。	○熊本動物園開園（水前寺成趣園の東側に）	○金融恐慌がはじまる。	・熊本放送局（ラジオ）ができる。	・熊本市が出水村を合併し、三大事業記念共進会を開催。	・郡役所廃止。	・市電・上水道が完成し、山崎町の兵営も郊外に移転（熊本市の三大事業）
○支那事變（第二次世界大戦）勃発。	○支那事變（第二次世界大戦）勃発。	○満州事變おこる。	○国際連盟脱退。	○日中事変おこる。	○太平洋戦争はじまる。	○三菱重工業株式会社熊本航空機製作所設立	○第一次世界大戦がおこる。
○支那事變（第二次世界大戦）勃発。	○支那事變（第二次世界大戦）勃発。	○満州事變おこる。	○国際連盟脱退。	○日中事変おこる。	○太平洋戦争はじまる。	○三菱重工業株式会社熊本航空機製作所設立	○第一次世界大戦がおこる。

現		代							
昭	和	時				代			
一九五九	一九五八	一九五七	一九五六	一九五四	一九四九	一九四七	一九四五	一九四三	
三菱重工業株式会社熊本航空機製作所付属飛行場（通称健軍飛行場）が開設される。	○米軍沖縄に上陸	二〇	昭和一八	一九四五	一九四三	代	代	時	現
義烈空挺隊 健軍飛行場を出撃。沖縄北・中飛行場へ降下。	○広島・長崎に原爆投下。	二一							
本土決戦作戦基地として陸軍の飛行六十戦隊（四式重爆撃機・飛龍）が健軍飛行場に配備される。	○ポッダム宣言受諾。降伏文書調印。	二二							
熊本空襲で王田・新南部・中山も戦災。	○占領軍熊本に進駐。	二三							
国民学校が小学校に戻る。	○日本国憲法施行。学制改革。農地改革。	二四							
新制中学として飽託東部中学校と二岡中学校ができる。	○昭和天皇が戦後初のご来熊。	二五							
四月、供合村で全国初の村営結婚式が公民館で行われる。	○朝鮮動乱がおこる。千円札発行。	二六							
戸島深迫部落創立五十周年記念碑建立。	・阿蘇中岳大爆発。	二七							
トモ、供合村で全国初の村営結婚式が公民館で行われる。	・県下に豪雨。白川水系の大水害がおこる（六・二六水害）	二八							
託麻原小学校が開校する。	・熊本市の電話がダイヤル式に切り替る。	二九							
小山戸島・供合・廣畑三村が合併して託麻村が誕生する。		三〇							
小学校が、託麻東・託麻西・託麻北と改称。		三一							
保田窪と新南部が分離して熊本市に合併する。		三二							
大智禪師が座禅を行つたと伝えられる石の上に不動明が建立される。		三三							
竜田村の熊本市編入により、飽託郡託麻村及び熊本市中学校組合立		三四							
飽託東部中学校と改称する。		三四							
託麻村簡易水道建設		三四							
二岡保育所設立		三四							
中央公民館建設		三四							
託麻西小学校東端に戦没者慰靈碑が建てられる。		三四							
広福保育所設立		三四							
小山戸島土地改良区が託麻土地改良区となる		三四							
託麻村に畠地灌漑実施		三四							
託麻西廣畑校に新校舎落成（昭和五四年まで第一校舎として使用）		三四							
帶山小学校開校（新南部は託麻原小へ、保田窪は帶山小へ）		三四							
新南部神社が新南部菅原神社に合祀され、新南部神社跡は子供遊園地ができる。		三四							
○皇太子殿下結婚		三四							

現						代					
昭和			時			代					
一九六〇	一九六一	一九六二	一九六三	一九六四	一九六五	一九六六	一九六七	一九六八	一九六九	一九七〇	四五
昭和三五											
熊本空港開港（旧健軍飛行場跡地）（熊本—東京間 五時間一五分）	新農村建設計画実施。農事センター設置。	託麻地域団体加入電話組合ができる。	戸島地区がパイロット実施（酪農經營を主とする農業構造改善事業）	供合保育園設立。	農業共済組合委譲。	保田窪忠靈塔（昭和十二年から昭和二十年までの戦没者）が建てられる。	北上団地（村営住宅六十戸）建設	新熊本空港・高遊原台地（菊陽・益城・西原）に移転新設することが決定	九州縦貫高速自動車道インターチェンジ建設	農免道路着工	託麻養蚕農業共同組合設立
・熊本国体開催（第二十三回）	○東京オリンピック大会開催	○九州横断道路（やまなみハイウェイ）が開通	・天草五橋が開通する	・新県庁舎開庁（出水町）	・江津湖畔に熊本動物園が開園。	・市民会館が開館する。	・託麻村「馬場居屋敷」に明治百周年記念事業の馬場道路舗装記念碑が建つ。	・長嶺阿蘇神社創建三五〇年記念碑が建てられる。	・小山保育園設立	・西原小学校開校。	・熊本総合鉄工団地が完成。
一般農業構造改善実施	空港取付け道路新設	九州縦貫高速自動車道インターチェンジの用地買収交渉が全国五縦貫道のトップを切つて妥結	熊本バイパス決定	石原年穂社の三〇〇年記念碑が古鳥居を利用して建立される	・託麻村上水道・企業体として発足し増設	・一般農業構造改善実施	・空港取付け道路新設	・西原小学校開校。	・北上団地（村営住宅六十戸）建設	・新熊本空港・高遊原台地（菊陽・益城・西原）に移転新設することが決定	・長嶺阿蘇神社創建三五〇年記念碑が建てられる。
託麻村・各部落内の道路舗装	託麻村・村落内道路舗装の完了	託麻村・村道「馬場—戸島線」の舗装	託麻村・村道「馬場—戸島線」の舗装	託麻村・村道「中山—神園線」の舗装	託麻村は熊本市に合併する。	市役所託麻支所設置される。	・長嶺阿蘇神社創建三五〇年記念碑が建てられる。	・西原小学校開校。	・新熊本空港・高遊原台地（菊陽・益城・西原）に移転新設することが決定	・長嶺阿蘇神社創建三五〇年記念碑が建てられる。	・長嶺阿蘇神社創建三五〇年記念碑が建てられる。

現						代					
昭			和			時			代		
一九七〇	一九七一	一九七二	一九七三	一九七四	一九七五	一九七六	一九七七	一九七八	一九七九	一九八〇	一九八一
昭和四五	四六	四七	四八	四九	五〇	五一	五二	五三	五四	五六	五七
小山諏訪神社境内の正平塔が市指定文化財となる。	東バイパス開通。熊本空港線開通。	熊本空港が高遊原に移転する。	県果実連のジューシ工場が出来る。	藻器堀川が一級河川の指定をうける。	県果実連のジューシ工場が出来る。	総合靈園・市斎場が戸島に完成。	三つの青果市場が合併して東部青果市場が作られる。	県酪連の牛乳工場（らくのうマザーズ熊本工場）が作られる。	県椎茸農協が移転してくる。	県警の交通管制センターが交通会館内（保田窪）に完成。	熊本市太洋デパートの大火災がおこる。
熊本県民総合運動公園建設に着工。	○第一次オイル・ショック起きる。	○沖縄が正式に日本に返還される。	○第一次オイル・ショック起きる。	保田窪の忠魂碑（島原の乱から神風連までの殉難士）が再建される。	熊本日赤会館・赤十字病院・血液センターが完成	西原中学校開校（東部中・帯山中の一部）	県心身障害者福祉センターが設置される。	・熊本市太洋デパートの大火災がおこる。	・熊本市大洋デパートの大火災がおこる。	・新熊本空港開港（高遊原台地）	・九州自動車道・植木－熊本間開通
戸島町酪農団地完成。	熊本トランクターミナルが作られる。	日赤健康管理センターが発足	保田窪天満宮の創建三五〇周年記念の大改築が行われ、記念碑を建立。	月出小学校開校（尾の上小・託麻西小の一部）	・熊本市の人口五十万を突破。	・熊本市の人口五十万を突破。	・熊本市の人口五十万を突破。	・熊本市の人口五十万を突破。	・熊本市の人口五十万を突破。	・熊本市の人口五十万を突破。	・熊本市の人口五十万を突破。
帶山西小学校開校（帶山小・託麻原小の一部）	熊本市東部清掃工場が完成する。	三山荘（東部清掃工場余熱利用施設）完成。	○第二次オイル・ショック起きる。	・熊本空港の三〇〇〇メートル滑走路が完成。	・熊本市の新庁舎落成。	・県立体育館・県立劇場オープン。	・三十九年ぶりの豪雪。	・ハウス農家に被害が出る。	・県立体育館・県立劇場オープン。	・三十九年ぶりの豪雪。	・ハウス農家に被害が出る。
託麻市民センターが設置され、託麻支所を併設。	長嶺山尻に長嶺校跡の石碑が建てられる（託麻西小百周年記念事業）	託麻市民センターが設置され、託麻支所を併設。	・熊本空港の三〇〇〇メートル滑走路が完成。	・熊本市の新庁舎落成。	・県立体育館・県立劇場オープン。	・三十九年ぶりの豪雪。	・ハウス農家に被害が出る。	・県立体育館・県立劇場オープン。	・三十九年ぶりの豪雪。	・ハウス農家に被害が出る。	・県立体育館・県立劇場オープン。
県社会保険センターが設置される。	熊本市と周辺一五町村の市内局番が三桁に、市外局番も「〇九六」に統一	保田窪天満宮の創建三五〇周年記念の大改築が行われる。	戸島・日向・下民俗資料館設置（一三〇点余展示）	託麻南小学校開校（託麻西小の一部）	託麻市民センターが設置され、託麻支所を併設。	長嶺山尻に長嶺校跡の石碑が建てられる（託麻西小百周年記念事業）	・県立体育館・県立劇場オープン。	・三十九年ぶりの豪雪。	・ハウス農家に被害が出る。	・県立体育館・県立劇場オープン。	・三十九年ぶりの豪雪。

現		代													
平	成	時	代	昭和時代											
二〇〇〇	一九九九	一九九八	一九九七	一九九六	一九九五	一九九四	一九九三	一九九二	一九九一	一九九〇	一九八九	一九八八	一九八六	一九八五	昭和六〇
一一二	一一〇	九八五	四	三	二	六三	六一								
健軍川遊水池完成。 長嶺鎧田遊水池公園が託麻南中央公園と改称 平成一三年度全国高等学校総合体育大会、ひのくに新世紀総体が 熊本県民総合運動公園陸上競技場を主会場として開催される。	パークドーム熊本完成。 東部環境工場内に「リサイクル情報プラザ」開設 熊本赤十字会館・熊本赤十字病院・日赤健康管理センターが新築完成 国体道路東西線・南北線開通 (陸上競技場・屋内運動広場・補助競技・花の広場の各ゾーン) 総合運動公園を主会場として第五回国民体育大会(くまもと未来国体) が開催される。	・男女共学の熊本県立大学発足 ・台風一八号が県下全域を直撃。 ・熊本市が中核市として発足	・熊本市と飽託郡北部・河内・飽田・天明町が 合併 ・台風十九号、県内で猛威。 ○バブル崩壊、日本経済の不況が深刻化 ○阪神淡路大震災起る ○地下鉄サリン事件	・新県立図書館江津湖畔にオープン。 集中豪雨で藻器堀川氾濫溢水(水前寺商店街が冠水) 豊肥本線・東海学園前駅開業。 戸島・日向の六地蔵が市指定文化財となる。 鎧田湧水池公園に桜が植樹される。 託麻村の熊本市合併二十周年記念式典開催。 長嶺小学校開校(月出小・託麻東小の一部) 長嶺中学校開校(二岡中・東部中・西原中・錦ヶ丘中の一部) 大智の一石塔が、台風十九号で倒壊。 大智の一字一石塔が修理・復元される。 長嶺馬場居屋敷、妙見池畔に長嶺妙見池改修記念碑が立つ。 保田窪放水路第一期工事竣工。 新東部環境工場、旧工場の隣地に完成。 託麻新四国八十八ヶ所設立七十周年記念碑建設。	熊本東バイパスの全線開通し、国道五七号と三号線を結ぶ。										
一一一	一一〇	九八六	四	三	二	六三	六一								

一三九七	永仁五年	福田寺（益城町福原）の五輪塔に「上安永地頭沙弥是円」が見える。
一三四七	正平二年	早岐氏の菊池武久が「下安永は、養父菊池武宗の本領地 新恩地の土地である」として地頭職を所望。
一五八五	天正一三	合志城主合志親重が、合志の城を出て、薩摩へ送られる途中託麻郡小山村に一日中宿をとった伝えられる。
一五九六	慶長 元	弓削石原遠近の人々が、山尻に一字を結び、熊本專光寺で薙髪をしていた慶誓を住持とした。
一六一二	慶長一七	慶誓が京都に行き、本願寺良如上人より淨念寺の寺号を許された。 （山尻淨念寺）
一六一三	慶長一八	慶貞が山尻淨念寺二代住職となる。
一六一五	慶長二〇	淨念寺住職慶貞は、鉄砲小路からの懇請により、淨念寺を移すことを決意した。（鉄砲小路淨念寺）
一九七六	昭和五一	保田窪本町・出水町・大字国府・健軍町の各一部の町界町名が変更される。 （第十二次住居標示の実施） （保田窪一・二丁目・帶山一・二・三・四・五丁目）となる。
一九七七	昭和五二	新南部町・下南部町・大江町渡鹿・保田窪本町・御領町・長嶺町の各一部の町界町名が変更される。（第二十五次住居標示の実施）
一九九二	平成 四	新南部町が「新南部一・二・三・四・五・六丁目」に 下南部町が「下南部一・二・三丁目」に 大江町渡鹿と保田窪本町が「保田窪本町・保田窪四・五丁目」に 新南部町・下南部町・保田窪本町の一部が「西原一・二・三丁目」に 御領町の一部（西窪）が「御領一丁目」に 長嶺町の一部（乾原・北原・古閑下）が「八反田一・二丁目」となる。
一九九四	平成 六	保田窪本町・新南部町・健軍町の各一部の町界町名が変更される。 （第二十七次住居標示の実施） （保田窪三丁目・帶山六・七丁目）となる。

一九九七	平成 九	長嶺町・御領町の町界町名が変更される。(第三十次住居標示の実施) 長嶺町が「長嶺東一～八丁目・長嶺西一～三丁目・長嶺南一～八丁目・八反田三丁目・月出八丁目」となる。 御領町の未実施分が「御領二～七丁目」となる。 保田窪本町の一部(西原・嵐・石の本)が「帶山八～九丁目」となる。
一九九九	平成 一	上南部町・御領町の町界町名が変更される(第三十二次住居標示の実施) 上南部町が「上南部一～四丁目」となる。 御領町の一部(松の本)が「御領八丁目」となる。
二〇〇一	平成 一	戸島町の町界町名が変更される(第三十六次住居標示の実施) 戸島町の一部が「戸島本町」「戸島一～六丁目」「戸島西一～七丁目」となる。 託麻スポーツセンターが上南部三丁目にオープン。
二〇〇三	平成 一	戸島町と石原町・長嶺町神園の町界町名が変更される(第三十六次住居標示の実施)
二〇〇四	平成 一	小山町の一部が「小山一～七丁目」となる。 石原町が「石原一～三丁目」となる。 長嶺町神園が「神園一～二丁目」となる。小山町の一部(下の山)と 平山の一部(下の山)が「神園二丁目」となる。

参考にした主な文献

一、古代から十一世紀まで

「新熊本市史 通史編第一巻（自然・原始・古代）・通史編第二巻（中世）・史料編第一巻（考古資料）」を参考にして編集。

二、一七九から一九九一年まで

「鈴木喬先生の執筆による『託麻の年表』（一部 野田哲也先生補足）をベースに
新・熊本の歴史編集委員会編 新熊本の歴史 十巻（年表編） 熊日新聞情報センター
熊日新聞情報センター編 熊本の昭和史（年表） 熊日新聞情報センター
平野敏也・工藤敬一編 図説 熊本県の歴史（年表） 河出書房新社
熊本市東部地区文化財調査報告書 熊本教育委員会」

を参考にして追加。

三、一九九一年から二〇〇〇年まで

「平野敏也・工藤敬一編 図説 熊本県の歴史（年表） 河出書房新社
新熊本市史 通史編第八巻現代I・第九巻現代II」

を参考にして追加。

編集・ワープロ入力（二版） 平成十三年一月 中村 安幸